
月の揺り籠から堕ちた日

ペ子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月の揺り籠から堕ちた日

【Nコード】

N3025J

【作者名】

ペ子

【あらすじ】

シヨートシヨート話。男と女。

女は男が着ているワイシャツの袖を掴む。取れかけた透明のボタンの穴から繰り返し糸を出し入れし縫い付けていく。銀色の細い針が上下し男はその動きを無表情に眺めていた。

「今、針が刺さったでしょ？」

「はい」

「痛かったら痛いって言っていないのよ」

「痛いです」

「言うのが遅いわね」

ボタンを付け終わった袖を男は腕を上げまじまじと見つめる。女は裁縫箱に糸と針を入れ片付けた。

「嬉しい？」

「はい」

「言われてから言うのは遅いのよ」

ベッドに寄り掛かりながら二人だけの時間を過ごす。狭い部屋に置かれたテレビから映画のシーンが流れ出る。

「感動した？」

「はい」

「泣いた？」

「はい」

「泣いてないじゃない」

「泣きます」

男は無表情のまま目から涙を零し始めた。しかし、それは液体というより片栗粉を溶かしたようなところみが含まれたものだった。涙が頬を伝う速度が遅い。その間、男は瞬きもしない。

「せつかくのハンサムが台無しじゃない。言われてからやるんじゃないのよ」

「愛しています」

「馬鹿ね。言えはいいつてもんじゃないの。タイミングが大事なのよ」

「キスしていいですか？」

「馬鹿ね。聞いちゃいけないことだってあるの。ムードが大事なのよ。聞く前に奪いなさい」

男が顔を近づける前に女が先にキスをした。顔を両手でつつむ、その手を少しずつつ彼の首に回した。首の裏を強く押すと男は停止した。

「失敗作ね。草食男子型ロボットは売れないわ。男は強引な方が燃えるのよ。もつと雰囲気を感じするのを上手くしないと……」

科学者はレポートを書き上げ研究室に戻って行った。

(後書き)

短いお話でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3025j/>

月の揺り籠から堕ちた日

2011年1月28日10時15分発行